



1年後の東京オリンピックと6年後の大阪万博

1964年(昭和39年)の第18回東京オリンピックとその6年後の1970年大阪万博は日本全体に大きな感動と衝撃を与え、その後の日本の成長の起爆剤になったと言えます。まさに国威発揚の機会となった訳です。

直接的には金メダル数の16個は今も過去最多であり、日本のお家芸柔道や体操、女子バレーボール、レスリングなどが大活躍しました。

また、大阪万博では「人類の調和と進歩」をテーマに77か国が参加して6421万人が様々な新技術や異文化に触れ感動しました。

この時の展示技術で花開いたのが、温水洗浄便座、動く歩道、携帯電話、缶コーヒー、ファーストフード、UFOキャッチャー、電気自動車、リニアモーターカーなどで、今ではそれらはすべて花開いています。

そして、これらの世紀のイベントを成功に導いたのは名神高速道路、首都高、東海道新幹線などの開業で、それらはその後も発展延伸し続けており、今日までの工場の国際移転や新産業の国内展開などに平成時代を通して貢献してきました。一時は深刻な状況下であった環境問題も相当に改善し、その技術力も世界のトップクラスになりました。

さて、第2東名線の完成後に2020年第32回東京オリンピックを迎え2025大阪関西万博の後には東名間のリニア路線が完成予定であり、55年前のインフラ開発状況と相似形にありますが、スポーツ文化の向上やAIなどを活用した画期的コラボ技術などで日本がトップランナーになり得る広範な分野が高い文化や技術水準にあることに大きな違いがあります。

これから展開する令和時代の幕開けに世界的2大イベントを迎えて、これからの日本がどう発展していくかの大きなマイルストーンになると確信しています。

今までは見えている目標を追いつけ追い越すことに専念することが多かった状況でしたが、今後は新しい課題を見つけて挑戦して行くフロンティア分野でのトップランナーの時代になることを楽しみにしています。これから全分野で女性と世界一元気なシニア世代も大いに活躍する時代になると思います。

スポーツ分野もどんどん得意分野が広がっており、テニス、スケート競技、卓球、バドミントンなどもトップクラスです。

サッカーも着実にステップアップして、FC岐阜がJ1で活躍し、国際試合の中でもFCGIFUブランドの選手が輝いている時代が来ると考えています。



写真：©Kaz Photography/FC Gifu